

突然のロックダウンに揺れる上海

世界有数の大都市「上海」（人口約2,500万人）で、3月下旬から都市封鎖（ロックダウン）が始まりました。

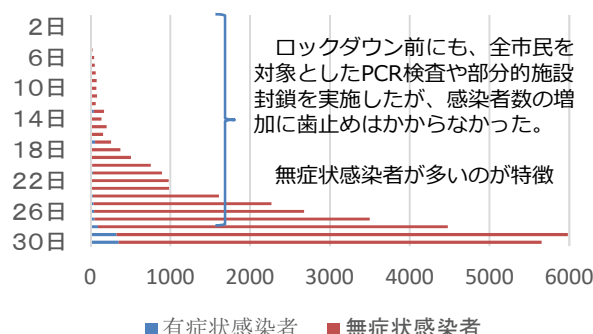
今回のロックダウンは、市の中心を南北に流れる川（黄浦江）を境に市内を東西に分け、前半期間【3月28日午前5時～4月1日午前5時】は東地区（浦東）を封鎖し、後半期間【4月1日午前3時～5日午前3時】は西地区（浦西）を封鎖するという形で開始されました。



浦西から浦東へ向かうトンネルの封鎖状況

◆ ロックダウン開始時の上海市内の様子

3月の上海市1日あたり感染者数(人)



上海市当局は、経済や市民生活への影響を考慮し感染拡大当初「ロックダウン」は行わない方針を表明していました。しかし、感染者数の増加に歯止めがかからず、急遽ロックダウンに踏み切ったのです。ロックダウンの実施が発表されたのは、前日の夜20時すぎであり、最初の封鎖地域である浦東に住む住民や企業は、食料確保や事業継続体制の整備に追われる夜となりました。

一方、ロックダウン対象期間前であるはずの浦西でも、突然、居住地やオフィスビルで各種検査のために施設封鎖が行われるなど、ロックダウンにむけた食料確保をめぐる不安と混乱の中で不自由な生活を余儀なくされました。

◆ デジタルを活用した「ゼロコロナ政策」の行方

中国では、「ゼロコロナ政策」という徹底したコロナ対策をとっています。

例えば、日本から中国に渡航する場合、ビザの発給制限から始まり、渡航直前の複数回にわたるPCR検査の実施や渡航後最低3週間の専用施設などでの隔離といった措置がとられます。中国国内の移動であっても感染者が発生した地域を経由する場合、48時間以内の陰性証明書がなければ移動が出来ないといった制限などもあります。この政策を可能としているもののひとつがスマートフォンを使用したアプリ（健康コード）です。このアプリだけで、個人の行動履歴に加え、ワクチン接種やPCR検査の結果なども確認できる内容となっており、現在の中国のデジタル技術力を十二分に活用したシステムとなっています。



さて、今回のロックダウンを踏まえ、中国のコロナ政策が今後どのような展開を示すのか注目されます。

スマートフォン上の健康コード

（上海駐在員事務所 澤田 洋介）

【お問合せ先】

七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室
TEL.022-211-9880

【Global Letter NEXT ホームページ】

その他の記事はこちらからご覧ください。

https://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter_next/



本紙記載の内容につきましては、当行が信頼できると考える情報に基づき作成しておりますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談いただくようお願い申し上げます。